

観光社会資本の事例

テーマ	まつりで活気あふれる江迎湯沢線
【施設の状況写真】	
	
<p>村山市榎岡の市街地を南北に貫き、商店街通りのバイパスの利用や村山駅利用車両の通行など市街地交通渋滞の解消に寄与しています。</p>	<p>江迎湯沢線沿線にある村山中央緑地(通称ふれあい広場)は、通常、地域住民の憩いの広場として、まつりでは、ステージ会場として利用されています。</p>
【施設の利用状況】	
	<p>8月21～23日の「むらやま徳内まつり」では、村山駅周辺の当路線と商店街通りを徳内ばやしの各団体が、趣向を凝らした衣装を着た踊り手、太鼓、笛、鉦、掛け声によるリズムカルな囃子、装飾した山車が一体となり、周回して観客を盛り上げます。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>以前のむらやま徳内まつりは、仮装行列をメインとしたまつりでしたが、郷土が生んだ北方探検家「最上徳内」の縁で村山まつりを一新し、平成7年に熱気と躍動感あふれる「徳内ばやし」が誕生しました。当初は、商店街通りで踊っていましたが、平成9年度の江迎湯沢線の開通により、まつりの規模が拡大され、平成10年には市内全地域(8地域)から参加するようになりました。現在では、県内外の各種イベントにおいて徳内ばやしの披露依頼を受けるようになりました。</p>	
<p>平成17年のむらやま徳内まつりでは、8月21日～23日の3日間に渡り行いましたが、初日、2日目に雷雨の影響を受けたものの、徳内ばやし共演の参加は、29団体、延べ7,500人にもものぼり、27万人の観衆が詰め掛けました。</p>	

